

第76回SGRAフォーラム

中近東・東南アジアからみる日本と暮らす日本

それぞれの視点で考える

共同主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

チャナッカレ・オンキズ・マルト大学（COMU）日本語学科

2025 年 5 月 2 日（金） 10：00～15：00（トルコ時間）

16：00～21：00（日本時間）

言語：日本語

参加方法：対面およびオンライン（Zoomウェビナー）

会場：チャナッカレ・オンセキ・マルト大学（COMU）アナファアルタルル・キャンパス
教育学部 4 階 セミナーホール

登録：<http://bit.ly/4hyiYbT>

趣 旨

中近東や東南アジアでアニメ・マンガなど日本のポップカルチャーへの関心が急上昇している。日本語学習のきっかけとなることも多い。トルコ語に翻訳された日本のアニメや漫画が飛躍的に増えているように、日本ポップカルチャーはブームだ。日本研究においても、これらの地域でなぜ日本文化の受容が広がっているのか、なぜ若者が日本語に特別な関心を持つようになったのかをもっと議論すべきであろう。

一方、日本には中近東や東南アジアの国々から来た多くのイスラム教の移住者がいるが、日本語や文化、教育の環境に順応しようとしながら生活する中で、さまざまな困難に直面している。まずは言語の壁や文化的な違いによる摩擦が大きな課題だ。また、日本で生まれ育った子どもたちにとっては、自らのルーツに基づくアイデンティティーや宗教教育に関する問題も浮上している。

フォーラムでは、こうした課題に焦点を当て、第1部では中近東の日本語教育と日本研究を考える。第2部では、日本文化の受容と日本語教育を内側から議論をするために日本社会と共生する外国人コミュニティ、特に、イスラム文化圏から来た移民が直面する問題を深く掘り下げ、具体的な努力や解決策を模索する場としたい。

中近東や東南アジア地域における日本文化の需要を外側と内側からとらえることにより、今日の世界における日本のソフトパワーの位置づけが可能になるだろう。

プログラム

総合司会：Irmak Kilkesen (COMU)・Arif Çelebi Metin (COMU)

10:00-10:10 開会挨拶

Eiichi TSUNODA (渥美国際交流財団)

Tolga ÖZŞEN (COMU)

10:10-11:30 第1部

中近東の若者にとっての日本語学習と日本文化

司会：Kazuma IWATA (東京外国語大学)

オンラインQ&A：Aqil CHEDDADI (慶應義塾大学)

10:10-10:30 「トルコに於ける日本語教育と学習者の最初の混乱：カタカナ」

Levent TOKSÖZ (Tekirdağ Namık Kemal University・NKU)

10:30-10:50 「トルコの若者のアニメとマンガ関心：現実逃避、別世界とアイデンティティ」

Melek ÇELİK (COMU)

10:50-11:10 「イランの若者と日本語・日本文化：メディア、教育、就職、そして未来展望」

Ayat HOSSEINI (University of Tehran)

11:10-11:30 【討論】「中近東の日本語・日本文化イメージを再考察する」

Jianjun SUN (北京大学)

Miyuki ICHIMURA (COMU)

Shorina DARIYAGUL (筑波大学)

11:30-13:30 休憩・ランチ

13:30-15:00 第2部

日本におけるイスラムコミュニティの日本文化受容と日本語教育

司会：Aqil CHEDDADI (慶應義塾大学)

オンラインQ&A：Kazuma IWATA (東京外国語大学)

13:30-13:50 「在日の中東出身者における日本語習得過程の変容と影響要因に関する考察」

Akbari HOURIEH (神田外国語大学)

13:50-14:10 「在日インドネシアコミュニティと多文化共生：イスラム教育を中心に」

Mya Dwi ROSTIKA (大東文化大学)

14:10-14:40 【討論】「日本の国際化の中の外国人コミュニティを再考察する」

Zeynep GENÇER BALOĞLU (Pamukkale University・PAU)

Murat ÇAKIR (関西外国語大学)

14:40-14:50 総括

14:50-15:00 閉会挨拶&記念写真撮影

発表概要

トルコにおける日本語教育と学習者の最初の混乱：カタカナ

Levent TOKSÖZ

トルコには、日本語教育を実施している大学が5校ある。「日本語教育学」、「日本語・日本文学」、「日本語翻訳・通訳」など学科名には違いがあるが、いずれも特に初年度は日本語学習に重点を置いている。学習過程において、トルコ人大学生が最初に直面する課題として浮かび上がるのはカタカナである。

トルコの大学生は、カタカナを学ぶ際に驚きを隠せない。その背景を探るためには、彼らの「日本イメージ」と「外来語意識」に焦点を当てる必要がある。

トルコでは、日本に対して「自国の言語と文化を維持しながら近代化を遂げた国」というイメージが根強く残っている。カタカナ語、つまり外来語の多用は、このイメージと一致しない。

さらに、トルコ人の若者の外来語意識を見ると、なじみの薄い語に対しては「母語の伝統を損なう要素」として捉える傾向が強く、カタカナ語の多用に抵抗感を抱くのも無理はない。

トルコ若者のアニメとマンガ関心：現実逃避、別世界とアイデンティティ

Melek ÇELİK

日本語からトルコ語への文学作品の直訳は新しく、2003年の『坊ちゃん』（夏目漱石）がはじめてであったが、近年では80冊を超える日本文学シリーズの出版や、マンガ翻訳専門の出版社の設立も実現した。字幕付きや吹き替え版のアニメがNETFLIXなどメディアでも人気を博している。一方では若者同士がインターネット上で著作権の有無にこだわらず、アニメやマンガを訳して公開している例もみられる。アニメとマンガに関心を持つトルコの若者がオンラインのフォーラムで議論を展開させることも注目に値するだろう。本発表では、トルコの若者が特にオンラインフォーラムにおいてマンガやアニメに求めるものを議論する。特に、トルコの若者が興味を見せけている、日本とアジア文化という価値観の共有やアニメやマンガの「知識」を与える構造、異世界への逃避にも注目したい。それを通して、「トルコの若者にとって新たなアイデンティティを求める場としての日本のポップカルチャー」という定義に挑戦する。

イランの若者と日本語・日本文化：メディア、教育、就職、そして未来展望

Ayat HOSSEINI

イランにおける日本語教育の歴史と現状について考察する。まず、テヘラン大学での日本語教育の開始から現代に至るまでの変遷を概観し、同大学で実施されている日本語および日本文化に関する各種イベントや日本語能力試験（JLPT）の開催状況に焦点を当てる。次に、日本のアニメやマンガ、Jポップ等の大衆文化が若者の日本語学習意欲を喚起する要因となっている現状に触れ、イラン国内のソーシャルメディア上での日本語教育普及と日本文化の浸透状況を紹介する。さらに、近年、日本語専攻卒業生の就職難や他の東アジア言語・文化の人気上昇が、学生の学習動機や意欲低下に影響を及ぼしている点を指摘し、国際情勢や外交・政治の変動が日本語教育に与える影響についても考察する。これらの検討結果を踏まえ、今後の課題と展開の可能性を検証し、イランにおける日本語教育の未来を展望したい。

在日インドネシアコミュニティと多文化共生：イスラム教育を中心にー

Mya Dwi ROSTIKA

在日インドネシア人の人口は現在約17万人に達し、日本の外国人人口の4.8%を占める。これは7番目に多い外国籍グループであり、前年から5.2%増加し、過去最高を記録した。今後も増加傾向が続くと予想されている。彼らの多くはイスラム教徒であり、日本の生活においてさまざまな問題に直面する。日本社会も共生社会を目指し、イスラム文化への理解促進やハラール食の提供、礼拝スペースの確保など、宗教的配慮に努めているが、インドネシア人ムスリムの子どもたちが宗教教育を受ける環境は限られており、日本の公教育とのバランスをどのように取るかが重要な課題となっている。

本発表では、日本におけるインドネシアコミュニティの変遷をたどり、イスラム教育の課題を通じて多文化共生の可能性について考察する。

在日の中東出身者における日本語習得過程の変容と影響要因

Akbari HOURIEH

インターネットの発展により、日本のカルチャーやアニメが国境を超えて浸透し、日本文化への関心が急速に広がっている。このような関心の高まりを背景に、日本への留学や就労を目指す中東地域出身者も増加している。一方で、日本語の習得は難度が高く、来日前の十分な学習が課題となることも多い。しかし、オンライン学習の発展や日本語教育機関の海外展開により環境が整備されつつあり、日本語を学ぶ中東地域の学習者も増加している。今回は独自の文化的・宗教的背景を有する日本在住の中東地域出身者のコミュニティに焦点を当て、事前に母国で日本語を学んだ場合と、来日後に再びあるいは初めて学び始めた場合とで、日本語習得に対する意識や態度にどのような変化や差異が生じるのか、その背景要因とともに考察する。特に、母国で学んだ日本語が来日後の実生活や社会適応にどの程度役立つのかを検証し、実用性や課題を明らかにする。これにより中東地域における日本語教育の改善や、日本の日本語教育機関におけるカリキュラム設計の見直しに寄与することが期待される。さらに、日本語習得が社会への適応や多文化共生に与える影響にも注目する。日本語の習得レベルは職場や地域社会でのコミュニケーションや異文化理解、社会的ネットワークの形成に影響を及ぼし、相互に適応してコミュニティを形成していく要因となる可能性がある。

登壇者プロフィール

【発表者】



Levent TOKSÖZ | レベント・トクソズ

1980年、イスタンブール生まれ。チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学日本語教育学科卒業。修士&博士号（社会言語学）は広島大学にて取得。博士号取得後、同大学特任講師として勤務。2014年よりテキルダー・ナムク・ケマル大学東アジア言語文学科に所属。日本語に対して社会心理学的な立場から「感謝」「謝罪」「慰め」「嘘」のような言語行為について研究を行っている。

**Melek ÇELİK | チェリッキ・メレキ**

2009年度渥美奨学生。チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学日本語教育学部助教授。2011年11月筑波大学人文社会研究科文芸言語専攻の博士号（文学）取得。白百合女子大学、獨協大学、文京学院大学、早稲田大学非常勤講師、トルコ大使館文化部／ユヌス・エムレ・インスティトゥート講師、トルコ国立ネヴシヘル・ハジュ・ベクタシュ・ヴェリ大学東洋言語東洋文学部助教授を経て2018年より現職。

**Ayat HOSSEINI | アヤット・ホセイニ**

名古屋大学、テヘラン大学、東京大学で学士から博士課程を修了。現在、テヘラン大学日本語・日本文学専攻の教員及び東アジア言語文学科の学科長を務める。専門は日本語学・日本文学で、2024年末までに著書10冊、学術論文40編を発表し、23件の修士論文を指導。研究・教育活動の一環として、日本語・日本文化に関する学術的取り組みに従事。2022年、日本外務大臣表彰を受賞。

**Mya Dwi ROSTIKA | ミヤ・ドゥイ・ロスティカ**

2010年度渥美奨学生。国士舘大学大学院政治学研究科より博士（政治学）を取得。現在、大東文化大学国際関係学部講師。専門はインドネシア地域研究で、特に女性英雄カルティニの政治的役割を研究。大学で「多文化共生」を担当しており、日本のインドネシア人コミュニティにも関心を持ち、副次的な研究として取り組んでいる。

**Hourieh AKBARI | アキバリ・フーリエ**

イラン出身。テヘラン大学大学院日本語教育専攻修士課程修了。千葉大学博士後期課程修了（2018年博士号取得）。現在、神田外語大学国際コミュニケーション学科専任講師、千葉大学国際教養学部非常勤講師。2017年度渥美奨学生。日本在住の外国人や難民の言語環境および言語問題について、社会学・言語学の視点から研究。多文化共生社会、異文化理解、コミュニケーションに関する研究・教育活動に従事。

【討論者・司会】**Tolga ÖZŞEN | トルガ・オズシェン**

トルコ・チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学（COMU）日本語教育学科の教授であり、熊本大学のリエゾン教授も務める。熊本大学で社会学の修士号および博士号を取得。研究分野は、戦後日本の社会変動、日本の教育システム、日本のイメージ研究。近年は、生成AIの発展に伴い、日本語・日本学教育における学問的誠実性の観点からの諸課題にも取り組んでいる。学問以外では、20年間にわたり剣道を実践している。

**Jianjun SUN | 孫建軍**

国際基督教大学Ph.D.。現在は北京大学外国語学院日本言語文化学科准教授。第4回中国翻訳専攻（専門士）大学院教育指導委員会メンバー。2002年度渥美奨学生・SGRA研究員、南京大学アジア研究センター客員研究員。専攻は近代日中語彙交流史。近年は日中翻訳史、留学史に関心を広げている。著書1部（『近代日本語の起源 一幕末明治初期につくられた新漢語』早稲田大学出版部）、訳書1部、日本語教科書数部。論文多数。

**Miyuki ICHIMURA | 市村美雪**

日本、中国、ラオス、スリランカで日本語教育に携わり、2005年9月よりトルコ国立チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学（COMU）日本語教育学科講師となる。2007年9月より同学科予備教育課程コーディネーターを務めている。2021年COMU大学院日本語教育修士課程入学、2023年修了。趣味は和菓子を作ることとトルコのドラマを見ること。

**Shorina DARIYAGUL | ショリナ ダリヤグル**

筑波大学（人文社会系・国際日本研究学位プログラム）研究員、非常勤講師。研究分野は日本語教育、言語文化教育。カザフスタン出身。2018年度渥美奨学生。世界の日本語教育は静的な構造ではなく、様々なあり方が存在し、相互的に多層し合う現象から成り立っているという立場に立ち、日本語学習者及び日本語教師の主体性を重視し、日本語教育のダイバーシティを探究している。

**Zeynep GENÇER BALOĞLU | ゲンチェル・バルオール・ゼイネップ**

パムッカレ大学外国語高等学校准教授。2009年に岡山大学大学院比較社会文化科学研究科で修士号、2016年にトルコのパムッカレ大学社会科学研究科で博士号を取得。近年チュルク諸語と日本語の比較研究と共に世界初の土日辞典である『メジウムアイ・ルガット』という作品を研究対象としている。また、夏目漱石の『硝子戸』と『夢十夜』のトルコ語翻訳も手掛けている。

**Murat ÇAKIR | チャクル・ムラット**

チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学日本語学科と同大学修士課程を修了。その後日本に留学し、筑波大学博士課程単位取得修了。現在、関西外国語大学英語国際学部准教授。2014年度渥美奨学生。専門は、教育学、教育経営学・学校経営。トルコにおいて学校に通えていない子どものための学習漫画による防災教育が子どもに及ぼすメカニズムの解明について検討。

**Kazuma IWATA | 岩田和馬**

東京外国語大学外国語学部西南アジア課程トルコ語学科卒業。同大学大学院総合国際学研究科にて修士号取得・博士後期課程在学。2020-2023年にトルコ、ボアジチ大学客員研究員としてイスタンブールへ留学。2024年度渥美奨学生。専門は18世紀イスタンブールの都市社会史。

**Aqil CHEDDADI | シェッダーディ・アキル**

慶應義塾大学総合政策学部訪問講師。モロッコ国立建築学校を卒業後に来日し、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の環境デザイン・ガバナンス博士課程を修了。博士（政策・メディア）。2022年度渥美奨学生。

参加には事前登録が必要です。

QR コードまたはURL からお申込みください。

<http://bit.ly/4hyiYbT>



会場へのアクセス

会場：チャナッカレ・オンセキ・マルト大学（COMU）アナファルタルル キャンパス
教育学部4回セミナーホール

Cevat Paşa, 18 Mart Ünv. Anafartalar Kampüsü, 17000 Çanakkale Merkez/Çanakkale

HP: <https://harita.comu.edu.tr/egitim-fakultesi>



お問い合わせ

SGRA 事務局：sgra@aisf.or.jp